

研究開発体制調査報告書

『XXX』

Ver. 1.1

XXXX 年 XX 月 XX 日

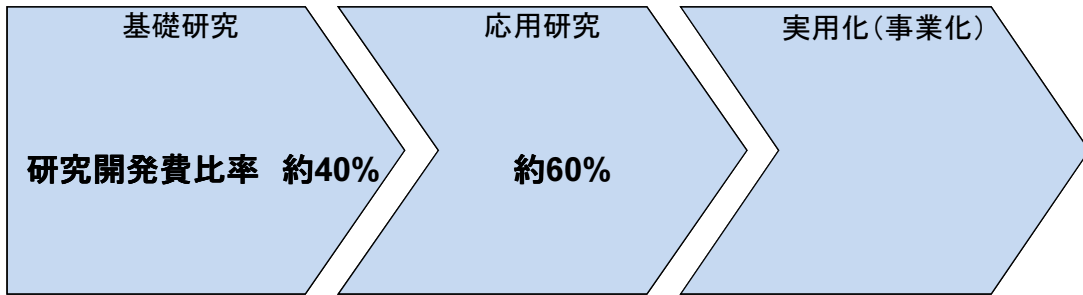
東京イノベーション&テクノロジー株式会社

Copyright©2014TokyoITC All Rights Reserved

目 次

1. エグゼクティブサマリ	P3
2. 会社概要<XXX>	P4
3. 会社組織図	P5
4. 製品・ソリューション	P6
5. 連結売上・純利益推移	P7
6. セグメン別売上・営業利益・売上比率.....	P8
7. 全社研究開発費と連結売上高	P9
8. 研究開発体制	P10
9. 研究開発費推定(2006年度).....	P11
10. 研究テーマ種別及び内容	P12
11. オープンイノベーションへの取り組み.....	P13
12. オープンイノベーションの構成	P14
13. 研究テーマのライフサイクル.....	P15
14. 応用研究費用負担	P16
15. 研究開発テーマと組織形態.....	P17
16. 研究テーマタイムチャート.....	P18
17. 応用研究成果物(知財権を含む)の取り扱い.....	P19
18. 開発デザイン関連フロー	P20
19. 商品企画・開発・製造部門とデザイン部門の連携動向	P21
20. 研究成果の足取り<事例>.....	P22

10. 研究テーマ種別及び内容



研究開発費比率 約40%

約60%

研究期間

10年～30年先を見据えた研究

3年～5年先の先行開発・実証実験

1年～3年内の実用化・事業化

費用負担

社内研究所負担(研究開発費)

社内事業部・グループ企業負担(原則、受益者負担)

テーマ数

年150～200テーマ(内、応用研究テーマが約100件)
毎年10～15%のテーマが変化する

3

Copyright©2008TokyoITC All Rights Reserved

11. オープンイノベーションへの取り組み

従来

クローズドな研究開発モデル
投資対収益が得られない

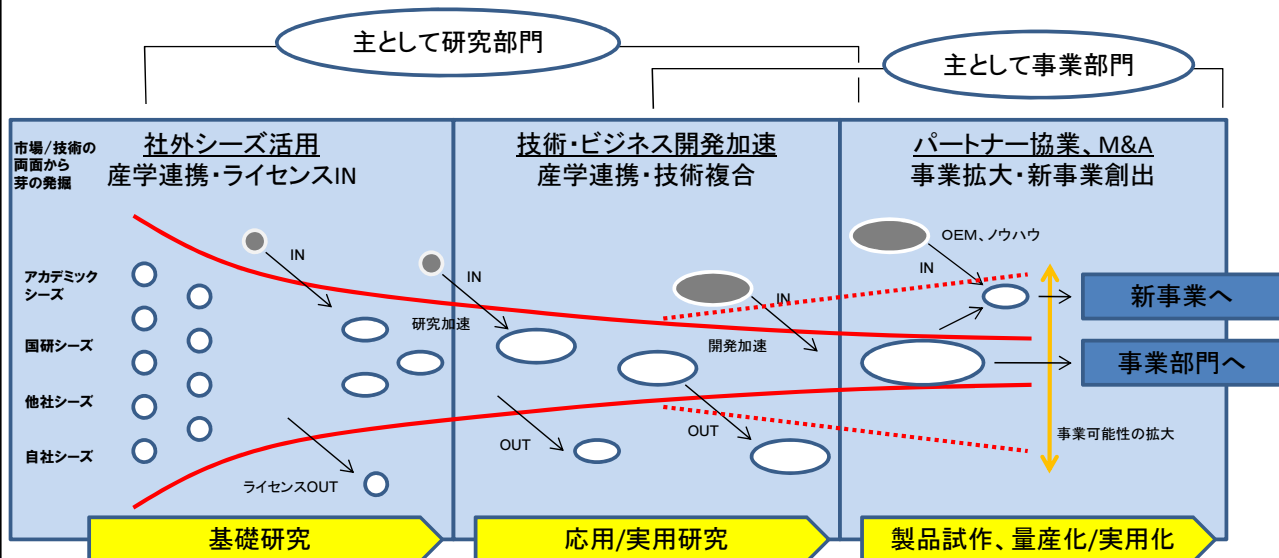
オープンイノベーション
への取り組み

※オープンイノベーションとは、カリフォルニア大学
バークレー校のHenry Chesbrough教授が提唱

今後

研究開発のオープン化
研究開発の効率化および
収益性(ROI)の向上

※Return on Investment - 投資利益率
(投下資本利益率、投下資本収益率、費用対効果)

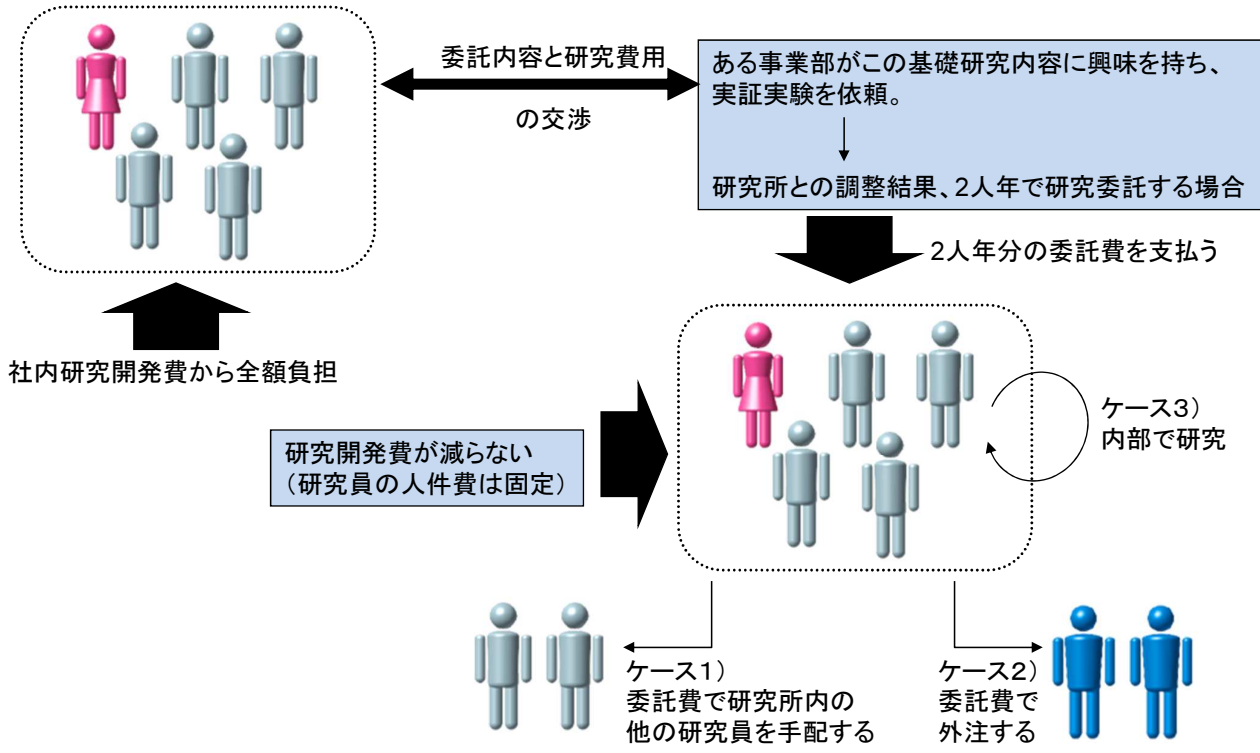


4

Copyright©2008TokyoITC All Rights Reserved

14. 応用研究費用負担例

ある基礎研究テーマを5人の研究員で行っていた場合



17. 応用研究成果物(知財権を含む)の取り扱い

